

# 平成20年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 公開講座募集要項

主催：名古屋大学大学院国際言語文化研究科

## メディアを読み解き、創造・発信する力

私たちの身の回りには様々なイメージやメッセージが氾濫しています。

それらを媒介するものをメディアと呼ぶとき、メディアは私たちの思考や行動に少なくない影響を及ぼしているはずで

す。氾濫する情報を適切に取捨選択すると同時に、自ら創造・発信していくためには、イメージやメッセージが形成・伝達される過程や背景を知ること、あるいはそれらが社会や文化の中で果たす役割を理解することが役立つと言えます。

本公開講座では、情報を媒介するあらゆる事象・事物をメディアと解釈し、日常生活に氾濫する様々なイメージやメッセージへの接し方、そして自ら情報を創造・発信していくことの意義などを、グローバルな視点も含め考えてゆきます。

第1回 6月11日(水)	<b>開講式</b> <b>■戦争と情報操作、そしてメディア</b> キーワード：イラク戦争、スパイ、CIA、世論誘導 イラク戦争の裏では、ブッシュ政権による歴史的な情報操作と世論誘導が行われていた。日本ではきちんと伝えられなかった、その実態を詳しくお話したい。情報化の時代に、白昼堂々と嘘がまかり通り、米国民はだまされた。真実が隠され、後になってCIAの失態がさらけ出された。メディアはなぜ、そんな悲劇を防げなかったのだろうか。	大学院国際言語文化研究科長 吉村 正和 教授 春名 幹男
第2回 6月13日(金)	<b>■アニメーションから見えるコミュニケーションのカタチ</b> キーワード：アニメーション、芸術表現、デザイン、情報教育、コンテンツ 我が国のコンテンツ産業の核といえるアニメーション。しかし情報伝達手段という観点においてはその利用価値はまだまだ未開拓であるといえます。今回は、20代の作家が制作した秀逸な短編アニメーション作品をいくつか例に挙げ、アイデアが作品に落とし込まれる制作プロセスを解析します。造形行為にどのような「伝える」ための工夫が内包されているかを読み解き、コミュニケーションのあり方や情報教育ためのヒントを検証します。	准教授 池側 隆之
第3回 6月18日(水)	<b>■可視化される社会的弱者 —オルタナティブ・メディアの可能性</b> キーワード：オルタナティブ・メディア、社会的弱者、メディア効果論、エンパワメント 既存のマス・メディアに代わる情報発信媒体を指して、「オルタナティブ・メディア」と呼ぶことがあります。インターネットはその象徴的な例と言えるかも知れませんが、実際には多様なオルタナティブ・メディアが存在します。それらに共通する背景として、情報通信技術の革新や社会情勢の構造的変化が挙げられます。この講義では、とりわけ社会的弱者にとってのオルタナティブ・メディアの意義や、オルタナティブ・メディアの課題などを考えます。	准教授 八幡 耕一
第4回 6月20日(金)	<b>■インターネットによる動画情報発信</b> キーワード インターネット、動画、CGM (Consumer Generated Media)、情報発信、YouTube 「テレビでも見て勉強しなさい」と言いたくなるほど最近の学生はテレビを見ていません。新聞も読まない若い世代はインターネットで何をしているのでしょうか。前半では、ブログ、Second Life、YouTube、Podcastなど最近話題になっているインターネットを利用したサービスを取り上げ、紹介するとともに、後半はワークショップとし実際に簡単な動画を制作し、インターネットに投稿してみましよう。	准教授 後藤 明史
第5回 6月25日(水)	<b>■見立て番付から見る文化発信の諸相 —料理、食物、名物番付を中心に</b> キーワード：見立番付、料理茶屋番付、日常のオカズ番付、野菜と魚番付、名物番付 現在残存する「見立絵」からは、様々な江戸時代のユーモアと遊び心が伝わってくる。その「見立絵」とは別に相撲の番付表を模して作られた一覧表があり、一般に「見立番付」と呼ばれている。趣向を凝らし作られた様々な「見立番付」から、料理、庶民のオカズ、野菜や魚のランキング、日本中の名物を集めた名物番付などを中心に見ながら、江戸における食文化の発信にこれらの番付表がどのように関わっていたのかを考えたい。	助教 伊藤 信博

第6回 6月27日(金)	<p>■モラルパニックにおけるメディアの役割 —イギリスラジオニュースに見られる青年犯罪 准教授 エドワード・ヘイグ</p> <p>キーワード：青年犯罪、モラルパニック、イギリス、BBC、ニュース</p> <p>若年層、殊に銃や刃物による暴力的および生命にかかわる犯罪行為を起すギャングによる反社会的行動が2007年イギリス市民の間で大きな話題となった。その年の夏、ある青年犯罪の事件をきっかけに英国のメディアは青年犯罪に関する事件を大々的に報道することで、青年による社会に対するモラルパニックへの危機感を増大させていった。本発表においては、ラジオニュース番組においてBBC（イギリス国営放送）が青年犯罪を報道する様相の分析に基づいてメディアがどのようにモラルパニックを構築してゆくかを議論してゆきます。</p>
第7回 7月2日(水)	<p>■モダンダンスとメディア —書籍・写真・映画 准教授 山口 庸子</p> <p>キーワード：ダンス、モダニズム、身体、写真、映画</p> <p>20世紀の初頭、踊る身体は、人間にとって何か根源的なものの表象として再発見された。だがその「自然」な身体のイメージは、一方で様々なメディアによって複製され、流布されたものであった。本講演では、ドイツ語圏モダンダンスを軸に、踊る身体が、多様な言説や画像・映像によって、どのように読み解かれたか、また逆に、舞踊家たちが、他のメディアによる表象をどのように読み解き、利用したのかを論じたい。</p>
第8回 7月4日(金)	<p>■日本社会とモバイル・コミュニケーションの変容 准教授 金 相美</p> <p>キーワード：モバイル、モバイルデバイス、若者、日本、コミュニケーション</p> <p>日本社会におけるモバイルの普及の意味及びコミュニケーションに及ぼす影響について、最新の調査結果に基づき講義を行う。</p> <p>閉講式 大学院国際言語文化研究科長 吉村 正和</p>

開催期間：6月11日(水) から7月4日(金) まで 毎週水・金曜日 全8回

開講時間：18:30～20:00

受講対象者：一般社会人、大学生、大学院生

募集人数：60名(先着順)

受講料：7,200円(募集要項に入っている「納入依頼書」により郵便局へ払込)

開催会場：名古屋大学 東山地区 文系総合館7階カンファレンスホール(会場案内図参照)

申込締切：5月29日(木) まで [必着]

申込方法：郵送に限ります。

受講希望の方は、募集要項に入っている「納入依頼書」により最寄りの郵便局で受講料をお支払い頂き、その受領証を、「受講票」の「払込受領書貼付欄」に貼り付けて下さい。(納入の際には、所定の手数料が必要となりますので、ご了承下さい。受講料が納入されていない場合は、受講は認められません。)  
「受講申込書」に、氏名・年齢・住所・電話番号・職業を、「受講票」に氏名を明記の上、80円切手(返送料)を添えて郵便でお申し込み下さい。なお、封筒の表面左下に「公開講座受講申込」と朱書願います。  
「受講申込書」の受付が受理された方には、受講番号を付した「受講票」を折り返し返送します。

要項の請求：募集要項の必要な方は、名古屋大学文系事務部教務課事務室(国際言語文化研究科)[場所：文系総合館1階]まで直接お越し頂くか、または、返信用封筒(80円切手貼付のこと)を同封の上、下記申込先まで請求して下さい。

申し込みと：名古屋大学文系事務部教務課(国際言語文化研究科)

問い合わせ先 住所：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-5 (700)

TEL：052-789-5245 [AM9:00～PM5:00] FAX：052-789-4921

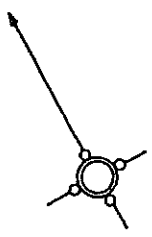
ホームページ：<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/events/2008/kokaikoza-2008.pdf>

「受講申込書」及び「受講票」に記載される個人情報、当公開講座を運営するに当たり必要な業務を行うために利用します。それ以外の目的のために利用、又は提供することはありません。また、これら個人情報の管理や利用は「名古屋大学個人情報保護規程」に基づき適正に取り扱います。


# 会場案内図




**文系総合館**  
 7階: カンファレンスホール(会場)  
 1階: 文系教務課事務室



## 〔地下鉄を利用〕

 地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車  
 (1番出口へ)

## 〔市営バスを利用〕

市営バスの系統・行き先				
	1	名駅 17・名古屋大学行	4	八事 11・名古屋大学行
	2	栄 16・名古屋大学行	5	猪. 名・猪高車庫行
	3	栄 17・名古屋大学行	6	猪. 名・妙見町行
いずれも「名古屋大学」下車				